

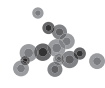


この人に 聞く

「臨床血液」は会誌としての役割だけではなく、若手の医療従事者の教育ツールとして重要な役割を果たしている。「この人に聞く」では、血液学の発展に寄与した偉大な先生方に貴重な話を伺う。今回は第83回日本血液学会学術集会会長の張替秀郎先生に語っていただいた。

進行役＝黒川峰夫
東京大学医学部血液・腫瘍内科

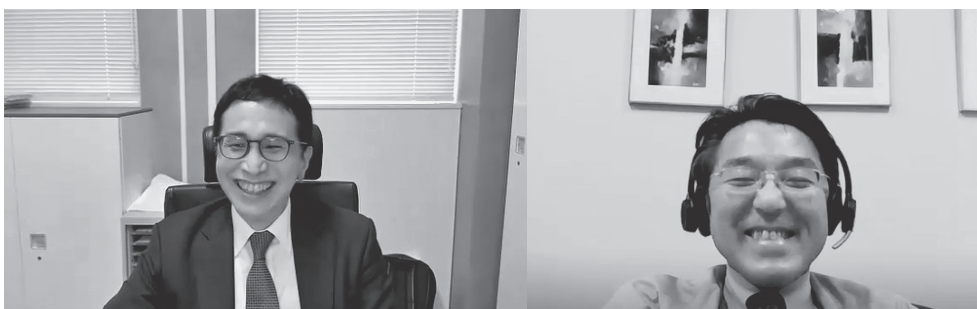
黒川 日本血液学会学術誌「臨床血液」の編集委員長の黒川峰夫でございます。このコーナーは「この人に聞く」というコーナーでございます。日本血液学会の学術集会の会長をお務めになった先生をお招きし、学術集会のことや、先生ご自身のこれまでの研究、臨床など色々なお仕事のことについて伺っております。また毎回とても貴重な若いドクターへのメッセージをいただいたり、「臨床血液」に対するアドバイスなども伺っております。今回は第83回日本血液学会学術集会の会長をされた東北大学の張替秀郎先生をお招きしています。皆さんご存じのとおり、今回の学術集会はもともとは対面開催あるいはハイブリッド開催を検討されていましたが、直前のCOVID-19感染状況等踏まえ完全ウェブ開催、オンライン開催ということになりました。張替先生の学会に対するご準備や運営をおそばで拝見し、非常に目まぐるしく変わる状況に非常に適切、機敏、迅速に反応されていて素晴らしいと感じたとともに、大変なご苦労があったのではないかなと思っております。早速でございますが今回の学術集会を振り返って、張替先生にとってどういうことが特色だったとか、どういうところが一番印象に残っているとか、お話をいただけますでしょうか。よろしく申し上げます。



完全ウェブでの学術集会を開催 して

張替 仙台での学術集会は今回が初めての開催だったので、やはり皆さんに来ていただいて東北・仙台を味わってもらいたいという気持ちが強かったのですが、黒川先生がおっしゃるとおり、残念ながらコロナの関係で完全ウェブ開催となり、どなたも現地参加ができなかったのはとても残念でした。当初、昨年のこの時期は通常開催できるだろうと思っていたのですが、年明け、現地開催はやはり難しいということになり、ハイブリッド開催に切り替えました。最終的には8月に第5波が来て、開催会場である仙台国際センターが実質的に使用できない状態になってしまったので、もうこれは仕方ないということで完全ウェブ開催としました。完全ウェブとなると、当日どういうトラブルがあるか分からなかったで、心配でしたけれども、結果的には全くトラブルがなかったので、ウェブ開催が学会の「新しいかたち」になってきたのかなというのが実感です。

ウェブ開催になっても基本的な学術集会のかたちは残したいと思っていたので、一般口演、ポスターは通常のプログラム通りとし、学会参加を意識していただくために基本的には各セッ



黒川峰夫先生（左）・張替秀郎先生（右）（Zoom 画面）

ションの討論はライブとしました。一般口演については、討論だけでなく、演題の半分近くが当日リアルでの資料共有でウェブ発表となったため、さらに臨場感が出せたように思います。あとは主要な企画はオンデマンド配信とし、会期中に見られなかったプログラムはそちらで見ていただくということにしました。

基本的に今回の学術集会はプログラム本体以外はシンプルにして、オーソドックスな学術集会にすることを意識しました。内容的には私の専門が赤血球ということもあり、なかなか取り上げられないトピックスではあるので、シンポジウムではそれを取り上げ特別講演も鉄関連の講演をしていただいたこと、その辺が会長として少し意識した点でしょうか。それから有識者の方を招き、社会的な要素を取り入れた特別シンポジウムも一つやりたいと思っていました。これらの企画で今回の学会の特色が少し出せたかなと思っています。

黒川 先生もおっしゃっていたとおり、昨年の宮崎先生が会長をされた第 82 回は本当に COVID-19 パンデミックが始まったばかりのときで、急遽色々変えながら準備を進めたと伺いましたが、今年はウェブ開催にはなったものの、COVID-19 の感染状況を念頭に置きながら、ウェブ開催を取り込んだ形式を、事前にある程度想定して準備をした初めての学会と言えるのではないのでしょうか。ウェブ開催の一つのモデルケースになったと感じました。

張替 そうですね。実際にこの血液学会の規模で完全ウェブでのライブ発表・討論というのは運営会社にとっても初めてだったようです。全てアップしてオンデマンドで、ディスカッションもなしというかたちであれば運営会社的には安心なのですが、ライブをかなり組み入れていたので、そこは結構心配されていました。ここ 1、2 年のコロナの影響で先生方がウェブを使用する機会が多くなったこともあり、ふたを開けてみると全くトラブルはありませんでした。

黒川 実際の参加者数とかの推移はいかがでしょうか。

張替 参加者は 6,500 人を超えたので、例年より少ないということではなく、昨年よりも少し多かったかもしれません。

黒川 そうなのですね。ウェブ開催となって参加しにくいというよりは、むしろ、参加の濃淡はあれど、参加しやすさという意味では、そんなにハードルが上がっていないという感じですね。

張替 そうですね。やはり、特に忙しい臨床の先生で、学術集会になかなか参加できない、参加できてもとんぼ返りといった先生方にとってはフルに参加できるメリットがありますし、他にも育児中など社会的な参加が難しい先生もご自宅から参加できるようにしますので、ウェブ開催によって参加の幅は広がったと思いました。OB の先生からも「ここ最近ずっと参加していなかったけれども、今回は参加しました」みたいなメールもいただきました。

黒川 そうですか。うれしいですね。

張替 色々な人が参加しやすくなった可能性はありますね。

黒川 では次に、学術的な視点からの内容として、今回の学術集会の特色について少し教えていただければと思います。

張替 ご承知のとおり基本的に日本血液学会の学術集会は、各領域からシンポジウム案と演者を満遍なく提案していただき、それを採用するかたちになっているので、会長があえて介入せずにセットできるという（会長にとって）楽なところはあります。それ以外の特別講演であるとか会長シンポジウム、特別シンポジウムで会長のカラーを出すというところがありますので、そういう意味で、先ほど申し上げた私の専門である赤血球を取り入れようと考えました。それから社会的な要素の入った特別シンポジウム。この辺りは今回企画として意識しました。あと開催日が、休日、平日、休日ということで中日が平日となりましたので、クリニカル・ディベート、そういった臨床的なものは休日に置き、臨床の先生が参加できるように工夫したこと、あとは海外演者を含めライブディスカッションをしていたこととしたので、欧米の演者の方々が参加しやすい時間に

シンポジウムを設定したというところはあります。

黒川 確かにオンラインですと物理的な距離の克服は容易なのですが、時差が問題ですね。そういう意味で、海外演者の方を招聘されたりするときのご苦労やお話がありますでしょうか。

張替 いや、今回海外演者の先生方で時差を理由に依頼を断る先生はどなたもいらっしゃいませんでした。ライブディスカッションについても快く了解していただいたので、あまり苦労はありませんでした。非常に協力的で、多少時差を考慮してシンポジウムを組んだにせよ、先方からすると少し夜の時間帯だったり厳しい時間もあったと思うのですが、全く嫌な顔せずというか、そういう意味でのリジェクトがなかったですね。

黒川 素晴らしい。張替先生に会長をしていただいて非常に充実したプログラムを聞けたということで、多くの方が満足しておられることと思います。

張替 ありがとうございます。

黒川 ウェブ開催の場合、オンラインでやるときと比べ、盛り上がる場合もあれば今一つ盛り上がらない場合もあるかのように聞いていますが、その点につきまして、どのようにお感じになりましたか。

張替 チャットでのQ&Aというのはラグタイムがあって即取り上げることが難しかったりしますし、オンラインでのディスカッションほど熱くなれないかもしれないですね。ただ、シャイな先生方にとっては学会の大きな会場で手を挙げて質問するよりも気楽なのではという感じはします。とは言ってもやはり学術集会の意義というのは、ある意味会場外での場外乱闘的な会話だったり、話をするだけで顔なじみになったり、診療の輪とか研究の輪が広がるのが学術集会の大きな意義のひとつなので、そこは今後完全ウェブだけというのは方向としてはたぶん良くないのではと思っています。確かに聴講するだけであればウェブで全然問題ないですけど、これからの若い人にとっては色々な輪を作ったり顔を売ったり、あの施設にああいう人間がいるのだというのを知らしめることってとても大事なので、そういう意味で言うと完全ウェブ開催とするのは学会の発展性という意味であまり良くないのではないかなと思いますね。

黒川 若手の方にとっては、有名な先生の講演が終わったところに寄って、場合によっては質問もできるみたいなそういう魅力もあったわけなので、それはぜひ今後の検討項目になるだろうなということですね。

張替 そうですね。そう思います。

黒川 ポスター発表につきまして、いかがだったでしょう？

張替 先ほど申し上げたようになかなかオーソドックスといえますが、学会の本来のかたちを残したいと思ったので学会期間中のみ閲覧ということにして、従来の学会と同じように3日間

の閲覧、もちろんウェブですから24時間見られますので、それ以降のオンデマンド的なものはなしということにしました。ベストポスターに関してはセッションを作り、それはウェブで流すようなかたちにして少し工夫しましたけども、ポスターに関してはウェブだとディスカッションの余地がどうしても減ってしまうかなという気がします。最終的に質問をメールで返すようなかたちになりますので、そこは物足りなさが残るような気はします。

黒川 そうですね。ポスターセッションを盛り上げる方法がなかなか思いつきません。

張替 今後の課題だと思います。

黒川 そうですね。ポスター発表が軽視されたりしないようにならないといいなと思いますね。

張替 そこですね。今回はなかなか難しかったです。

黒川 どうもありがとうございます。今後の専門医認定の在り方などを考えていくと、学術集会の聴講のしやすさという点でも、ウェブ形式のメリットがあるのではないかなと思います。参加者に時間的制約があっても講演単位で参加したり、ログを残しやすい可能性もあるかなと感じますが、いかがでしょう？

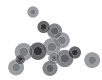
張替 おっしゃるとおりで、ログを取ることで参加の確認もセッションごとに可能だと思いますし、実際コーポレートパートナーからはやはり参加者の把握をしたいので企業側でシステムを入れても良いかといったリクエストもありました。専門医の単位登録のためかどうかは別として、参加のログは取りやすくなると思います。専門医認定委員長として専門医に関して言うと、セッションなり教育講演なりを単位化してしまうとどうしてもそちらのほうに人が集中し、一般口演などが少しおろそかになると問題かなと思っておりまして、認定委員会としては今のところは学術集会期間中のセッションを単位化するのではなく、終了後にeラーニング的なコンテンツを作って単位化するような方向で今考えています。

黒川 学会でも認定委員会の委員長として、専門医制度の改革の真ただ中でご苦労かと思いますがよろしくお願いたします。

今回の学術集会は、張替先生のご尽力の結果、魅力的なプログラムをたくさん作っていただきまして、年1回学会員の方も本当に楽しみにしている機会で、十二分にお応えいただいた素晴らしいハイレベルの学術内容だと思いました。学術集会のレベルそのものがますます上がっていると感じさせていただけるような素晴らしい構成プログラムだと思います。

張替 ありがとうございます。ともに準備してきた医局員やプログラム委員の先生方のご協力のおかげです。今後の開催形式としては、再三申し上げているように恐らくウェブ配信という形

式はコロナが終わっても残さざるを得ないと思います。それが機会均等というか、より幅広い人々に勉強の機会を提供するという意味では必要だと思いますので。一方、先ほど申し上げたように学術集会の大きな意義は、直接会ってコミュニティーを育てたりコラボレーションを促進したりすることですので、現地開催という選択肢を抜くわけにはいきません。今後は試行錯誤しながらハイブリッドのようなかたちが定着していくのかなという予感します。ただ、開催形式が少し変わったとしても、日本血液学会は各領域が非常にしっかりしていて、各領域から上がってくるテーマも演者も最新のものなので、プログラムの基本形はあまり変わらないのではないかと思います。もちろん、大会長が自身の専門領域のシンポジウムを組むとか、その時々旬のテーマを取り上げた企画を組む、そういったところはある程度フリーハンドで残しておくということになるかなと思います。かたちの話ばかり申し上げますが、そんな感じです。



肌に合っていた血液学

黒川 最後に張替先生のご専門や血液学を志したきっかけなどをお話いただければと思います。あと留学の思い出などお聞きしたいのですが。

張替 血液学を選んだ動機については、あまり胸を張って言えるものがないです。研究としては学位研究として始めた赤血球造血とヘム合成・鉄代謝が留学を通して現在まで続くテーマとなりました。臨床としては、外科ではなくて内科、内科の中では慢性疾患ではない急性疾患で内科医が治せる疾患ということで血液学を選んだというのが正直なところ。研究についても臨床についても、それが今まで続いているということなので、結果的に肌に合っていたのでしょうね。

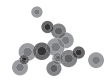
留学については、臨床をやりながら研究をして学位を取ったところで、それを一区切りとしてあとは臨床一筋で良いかなと思っていたのですが、ニューヨークのロックフェラー大学の佐々茂先生から受け入れてくださるというお話をいただき、決断しました。学位研究でやってきたことが赤血球の研究だったので、大変ありがたい機会と思ったのは事実ですが、一度は海外で生活してみたい、そんな経験ができれば良いかなという不心得な動機もありました。結果的には人生において最も大きな転機となったといえるかもしれません。

黒川 最近、留学する方が減少傾向にあるということも聞きますが、これからの留学の意義についてどのようにお考えですか。

張替 留学に関して言えば、行ってみないとその価値は分からないと思います。海外の情報ならウェブで得られると考えるのは全くの間違いで、実際に行ってみないと分からないことは確実にあります。地球の裏側に別の世界があるということを知っているだけでも、非常に良いことだと思います。若い先生方には選択を初めから狭めずに、色々な可能性を残しつつぜひ海外に留学し研究していただきたいなと思います。

私はいわゆる初期研修・後期研修をしたあとに大学に戻り、医員として血液の臨床・研究をしました。大学では専門診療だけでなく色々な病院で地域医療もやりました。研究をやったことで留学の機会をいただきましたが、帰国後は臨床に戻ろうと思いき、関連病院で血液の臨床に従事しました。結果的に大学に戻り、こういうキャリアになりました。このような経験を持つものとしては、選択を最初からあまり絞めないほうが良いのではないかと、いわゆる可能性は幅広く持ったほうが良いかなと思います。臨床でも研究でも構いませんけど、とにかく色々経験していただきたいなと思っています。

黒川先生もお感じだと思いますけど、血液学というのは深く広くというか、造血って研究テーマとしても非常に面白いですよ。今回の学術集会では「恒常性と復元力」をテーマにしましたが、造血のポテンシャルって研究対象としてもとても面白いと思いますし、診療としても内科医が自分の力で全部診断して治せるというのはなかなかほかにはないので、決して楽ではないですけど、やりがいのある領域だろうなと思います。臨床という意味では、高い専門性があるのと自分の力で患者さんを治せるということが大変魅力的ですし、基礎研究という意味では造血というものの深さというか幅広さというかポテンシャルというか、そういったものはテーマとして非常に面白いと思いますので、多くの若い人にこの領域に入ってきてもらいたいですね。



なんでもやってみる

黒川 今でも研究と臨床のはざまで悩んだり、迷ったりする若手の先生も多いと思うのですが。

張替 これは血液だけにとどまらず、研究をやるということは科学的な思考といえますか考え方が必ず身につきますし、それは臨床に必ず役に立つと思うんですね。血液に関して言うと研究と臨床の間の行き来がすごく楽ですね。外科の先生が外科手術を極めながら研究をやることには少しギャップがあるような気がしますけれど、血液においては基礎研究と臨床との行き来が

大変フリーなので、基礎研究をやったあとに臨床に戻ってそれを使う、役立てることが非常にイージーです。もちろん結果を出すのは別ですけど、そういう意味ではある意味はざまにいても、研究に行ってみたり臨床に行ってみたり、将来のオプションとしてはある程度両方見えやすいので、そこはあまりその時々で悩まずに、その時々でやれることをやってもらえれば決して無駄にはならない。

黒川 そんなに思い詰めて限定しないで興味の赴くままに好きなことやっても良いのではないかと。

張替 そういう感じで来たので、あまり深めることなく私はここまで来ちゃいましたけど。色々な幅を持って、色々なところまで色々なことやってもらうのが良いかなと思いますけど。

黒川 若手の方、大変勇気づけられたのではないかと思います。ありがとうございました。これでは最後に「臨床血液」に対するご意見とかコメントをいただければと思います。

張替 私は「臨床血液」って本当に大事だと思っています。若手や研修医の先生が投稿するまでのステップを経験する。その意味で、和文で症例報告ができる雑誌の存在は大事だと思います

ね。論文を書き掲載されるという成功体験を得るうえでも大事です。また病院で臨床をやっているベテランの先生方が診療実績をまとめる、専門医として貴重と考える症例を報告する、そういった機会を提供するという意味でも、この「臨床血液」というのは大事な雑誌だと私は思っています。そしてあとは黒川先生のご手腕で面白い企画をやっていただければなお良しかと。「臨床血液」にはこうしてほしいというより、今のままIJHと違う立ち位置の雑誌として存続していただければと思っています。

黒川 ありがとうございます。まだまだお話を伺いたいところですが、そろそろお時間がまいりました。張替先生は今回の学術集会を大成功に導かれたことはもちろんでございますが、現在学会の副理事長として非常に多岐にわたって学会全体をリードしてくださっています。これからもますます血液学会のリーダーとしてわれわれをぜひご指導・ごけん引いただきたいと思っています。先生、今日はお忙しい中、本当にありがとうございます。

張替 ありがとうございます。